

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月27日～

先週は日経平均が6万円を超えるなど株価は堅調な動きとなっています。

リスクオンの流れでクロス円はユーロや豪ドルなどが高値圏での動きとなっています。

といってもAIなど一部の銘柄が上昇しているだけでTOPIXやNYダウは停滞した動きです。

AI、半導体などが強い日経平均、ナスダック、S&P500などの指数は強い動きですが株価全体を見ると下げている銘柄も多く、AIや半導体が崩れだしたら、総崩れというリスクもあります。

米国とイランが停戦を延長し、交渉が進むのではという期待感から相場は楽観的です。

米国は、停戦は無期限で交渉も急がないという姿勢のようです。

しかし、現状を見ると製造業などでは影響が出始めており、ホルムズ海峡の閉鎖が5月以降も続く場合は経済への影響はかなり大きくなりそうです。

原油は高止まりしているため原油価格の動きも注視しておく必要があります。

イランも政治家(大統領や外務大臣など)とイスラム革命防衛隊(IRGC)で意見が分かれているようで、交渉をまとめた政治家と交渉する気のない革命防衛隊で態度が違います。

このため報道を見ると、米国もイランも状況がころころと変わるため見通しが立たない状況が続いています。

仲介国のパキстанはなんとか交渉をまとめようと何度も米国とイランに働きかけていますが交渉が簡単にまとまるようには見えません。

今週は中央銀行のイベントが続くため、中東だけでなく金融政策にも注目が集まります。

中東問題で世界的にインフレ(物価高)への警戒が高まっています。

このためインフレ率(物価上昇)を見ながら、利上げに動く国が出てくる可能性があります。

日銀が今回利上げをするかどうかは微妙です。

もし、利上げとなればサプライズということで、相場が大きく動く可能性もあります。

予想は、日米ともに金利を据え置くとなっています。

日本が金利を据え置いた場合も円安進行を止めるために介入に動く可能性は高く、すでに片山財務相や米国のベッセント財務長官は介入への準備を進めているように見えます。

このため円安トライの動きも限定されそうです。

欧州(ユーロ圏)は6月に利上げをするかどうか注目が集まっています。

ユーロの利上げ期待が高まればユーロ高の動きが進み、ユーロ/円も190円が視野に入ってくる可能性があります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週は緩やかに円安が進み、159円台前半でマーケットが終わっています。

先週は158.5-160円の中を動いており、狭い値動きが続いています。

上値は160円を超えても3月末の高値160.5円あたりでは頭打ちになる可能性もあり、高値追いはリスクが高そうです。

160.5円を超えると161円台後半まであまり抵抗がなく、162円あたりまで上昇する可能性もありますが介入が入る可能性もあり、乱高下に注意しないとけません。

下値は、158.8円あたりにサポートがあります。

157.5円を割り込むまでは堅調な動きが期待できそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での動きが続いています。

株価が堅調なためリスクオン相場が続いています。

ユーロやポンドも高値更新の動きとなっているため株価が大きく崩れてこなければ堅調な動きが続く可能性があります。タイミングを見ながら買いのチャンスを狙っていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合、日銀展望レポート、植田・日銀総裁定例会見、3月鉱工業生産、4月東京都消費物価指数などがあります。

米国では2月ケース・シラー米住宅価格指数、4月リッチモンド連銀製造業指数、4月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、3月住宅販売件数、3月耐久財受注、FOMC(政策金利)、パウエル・FRB議長定例会見、3月個人消費支出(PCEデフレーター)、1-3月期雇用コスト指数、1-3月期実質GDP(速報値)、前週分新規失業保険申請件数、4月シカゴ購買部協会景気指数、4月製造業PMI(改定値)、4月ISM製造業景況指数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で4月消費者物価指数、1-3月期GDP(速報値)、ユーロ圏でECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、ドイツで3月小売売上高などがあります。

ほかには、オーストラリアで3月消費者物価指数、カナダと英国で政策金利、英国で英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨、カナダで2月GDPの発表などがあります。